

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

3/Color

Black

A

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

M

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

B

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

東海道筋 大地震新海山
諸國之導

781
= 9

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9

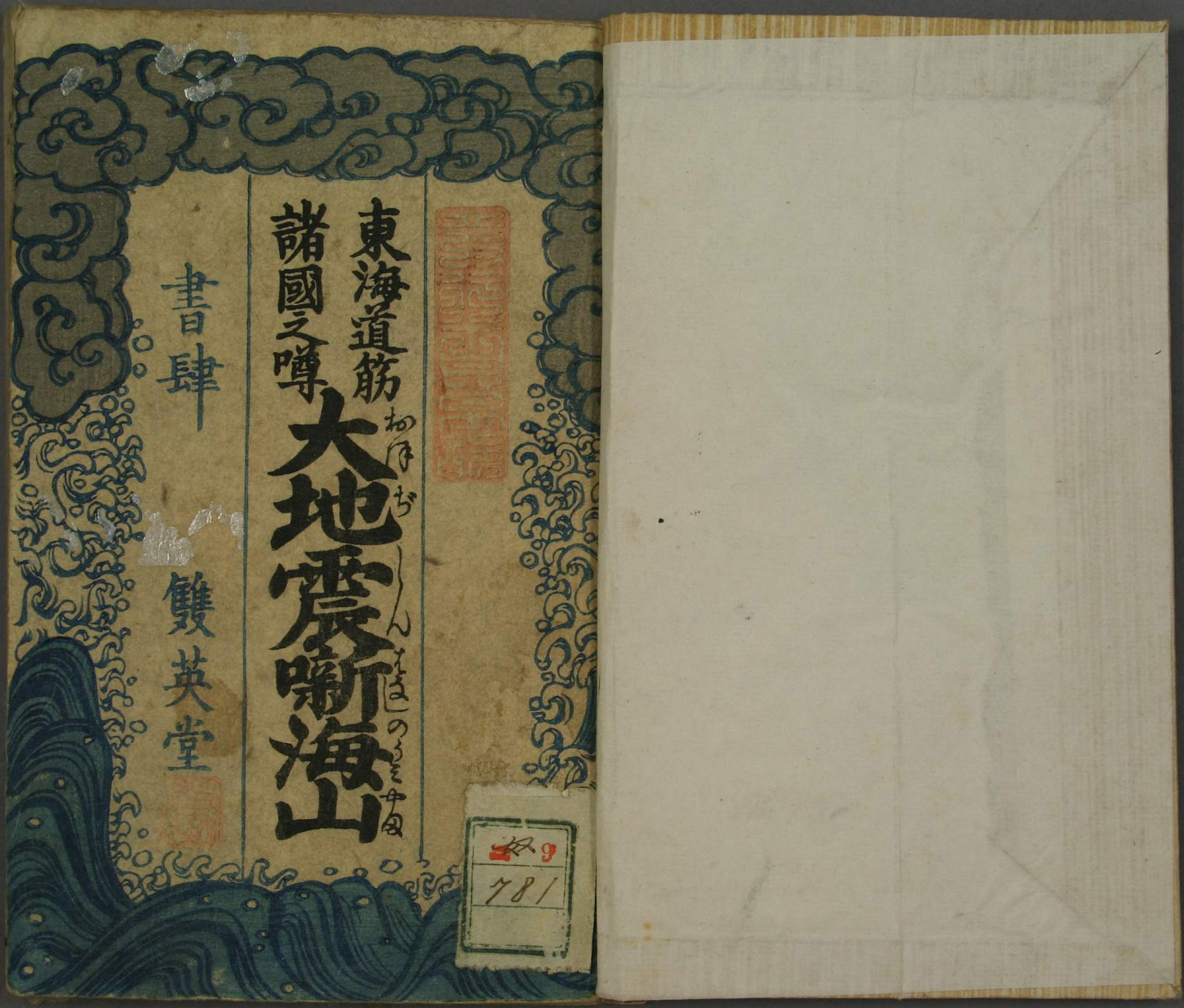
東海道筋 あづまみち
諸國之傳 あづまのくにのつたえ
大地震 おほいなるゆがみ
新海山 あたらしくうみのかみ



書肆

雙英堂

9
781



松川半山画

東海道 名所一覽
五拾三次

門 女 781 巻



東 海 道 中 大 地 震 津 浪 出 火 之 記

嘉永七年寅土月四日五日

伏見

大坂同刻の震をれども格別の荒る
いそりの官石とさうさうまき崩る

京都

同刻同中より各大なるけ出夜間とを
大坂よりいそりたるりくのあやう崩る

大津

草津 石碓 水口

土山

坂ノ下 関 飛山

右に寄る同日同刻の震をれども格別の大なるを
を道左赤木崩あり

虎野

東ノ方並本の丑
震山ノ地ニ在ル

石系沙 舞ノ寺

二十七丁

四日市

凡五六十軒并家例ヲ又後田ノ方并
格別ノ寺ヲ有ル

三丁八丁

素名

此宿地ノ一ノ中ニ
格別ノ寺ヲ有ル

海上ニ在リ

宮

此宿凡六丁ノ中ニ
格別ノ寺ヲ有ル

一丁ニ在リ

此宿凡六丁ノ中ニ
格別ノ寺ヲ有ル

此宿凡六丁ノ中ニ
格別ノ寺ヲ有ル

鳴海

地ノ一ノ中ニ
格別ノ寺ヲ有ル

二丁ニ在リ

池部

此宿凡六丁ノ中ニ
格別ノ寺ヲ有ル

三丁ニ在リ

正崎

此宿凡六丁ノ中ニ
格別ノ寺ヲ有ル

一丁ニ在リ

此宿凡六丁ノ中ニ
格別ノ寺ヲ有ル

後川 赤坂



河津野

右に二宿ありては
少なきを崩る
格別のそんどあり

尾州名古屋地震

○此地二三アありのそんど
市中土瓦崩れ崩る
七朝町の五寺の大門なる
又火うけに五寺を焼
外家あり小舟材木
押上り舟を焼
かあり
○知多郡 新田公是也
大津波を丈の尺二丈強
の浪打寄せ現三雨切の浪
大井 龜崎 又島らる

新田

六七アありのそんど
所城を金屋とて大橋換
ずる所遠四百斗焼まは

二川

は二宿ともありありの故
しるれあり

新井

海上あり
まひあり

新坂

二りあり

新松

四りあり

見附

一りあり

大津波は河津野新井の外新井
は附船を焼くなりと云ふ
お崩しありては死にた
右月中のりありては死にた
仲より大船と宿中へ押上り
さぬありては死にた
は宿家崩れ死にた又出火ありて
死にた
切らぬ水ありては死にた
凡ちありては崩れ死にた
お地しんひては崩れ死にた
方丈そんど死にた



袋井 一丁十丁 掛川 一丁九丁

はあ宥とも丸崩とそと出火してう焼
 燬る人る半又いつる返りて死焼死とる
 難くは不海乃弟一の大難かてそりる
 昔光寺地んのぞく人々是と難いべし

日板 一丁四丁
 は宥地しん日中りあてかこらや崩る
 出火りれどもあ宥のほどのことあ

金谷 一丁
 丸崩のうく山ぬけ崩れあて人あ
 多の埋む土中の死人多

徳田 一丁八丁
 は宥崩あられどもさうたうあれ
 あし難とくき

一り六九丁 後校

凡四ノ通リ崩家
寺ノ通リ焼く

二り 岡部

地ノ通リ
崩家の上出火五

一り 丸子

此宿中ノ通
くらま家

二り 舟中

舟中ノ通
江川丁ノ出火
凡四ノ通リ焼く
此宿中ノ通
はるはる見らる大つる
みく舟大つる家
のまじりしるる

一り 江尻

此宿中ノ通
丸やけ死人救

三り 仲津

大は後とて人救はる
崩るはる一り舟中
凡四ノ通リ焼く
此宿中ノ通
丸やけ死人救

由井

三ノ通リノ崩家
舟中ノ通
丸やけ死人救

崩原

此宿中ノ通
丸やけ死人救
此宿中ノ通
丸やけ死人救

三り 清原

此宿中ノ通
丸やけ死人救
此宿中ノ通
丸やけ死人救

三り 三浦

凡七ノ通リ
崩家とある人
多し



○ 初宮 懸 津戸 云度 何きも 日刻の地震 家数

多く 崩れ 煙 我人 死人 數 志 ね 守

○ 地回 倭 舟 日 時 の 荒 くれ ども 崩 家 少

○ 丹波 龜山 凡 百 軒 斗 崩 二 百 軒 斗 共 在 初 大 震

○ 泉 及 博 日 刻 日 横 地 震 凡 百 軒 浪 之 横 四 水 突 初

地 大 七 十 七 之 橋 子 踏 落 凡 人 凡 六 十 人 煙 我 人 煙

○ 紀 及 日 刻 大 津 浪 之 甚 日 言 後 代 異 度 与

收 三 尺 半 上 下 死 人 凡 百 五 十 人 崩 家 二 百 余 軒

は 余 皆 之 大 七 十 七 年 之 初 十 七 年

○ 日 五 加 田 湯 浅 異 何 甚 也 大 津 波 来 り 家 数

多 流 流 〇 田 丑 津 浪 之 混 〇 の 上 跡 〇 家 数 大

り 〇 過 津 燦 〇 新 文 子 大 嶋 日 比 押 の 海

丑 津 浪 〇 〇 異 態 野 錦 永 徳 丸 鬼

む ませ の 丑 凡 家 数 千 軒 程 〇 〇 〇 村 〇 〇 〇

○ 大 津 浪 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 勢 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

○ 山 田 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇

〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇



○伊勢西宮地蔵堂に於ては宮明神
 曰く按て此の宮明神は伊勢波多
 足皆神傳の事也其の故は云々
 ○松坂崩家長は右の條は此の所
 ○六朝岩川筋の丈付波入
 ○津波一多の崩家ありあり
 築地の方流家次あり
 ○神戶白子若松に於ては伊勢波
 入の事あり
 ○神社川崎大藤に於ては伊勢波
 入の事あり

○志保の羽の矢破
 田代は月夕の鳴く迄
 湯家多の所成伊勢
 斗争の所成中伊家
 大争の所成伊津和
 別しては伊津和
 伊津和人多くは先と
 伊津和人多くは先と
 ○伊津和人多くは先と
 の換ては崩る宮



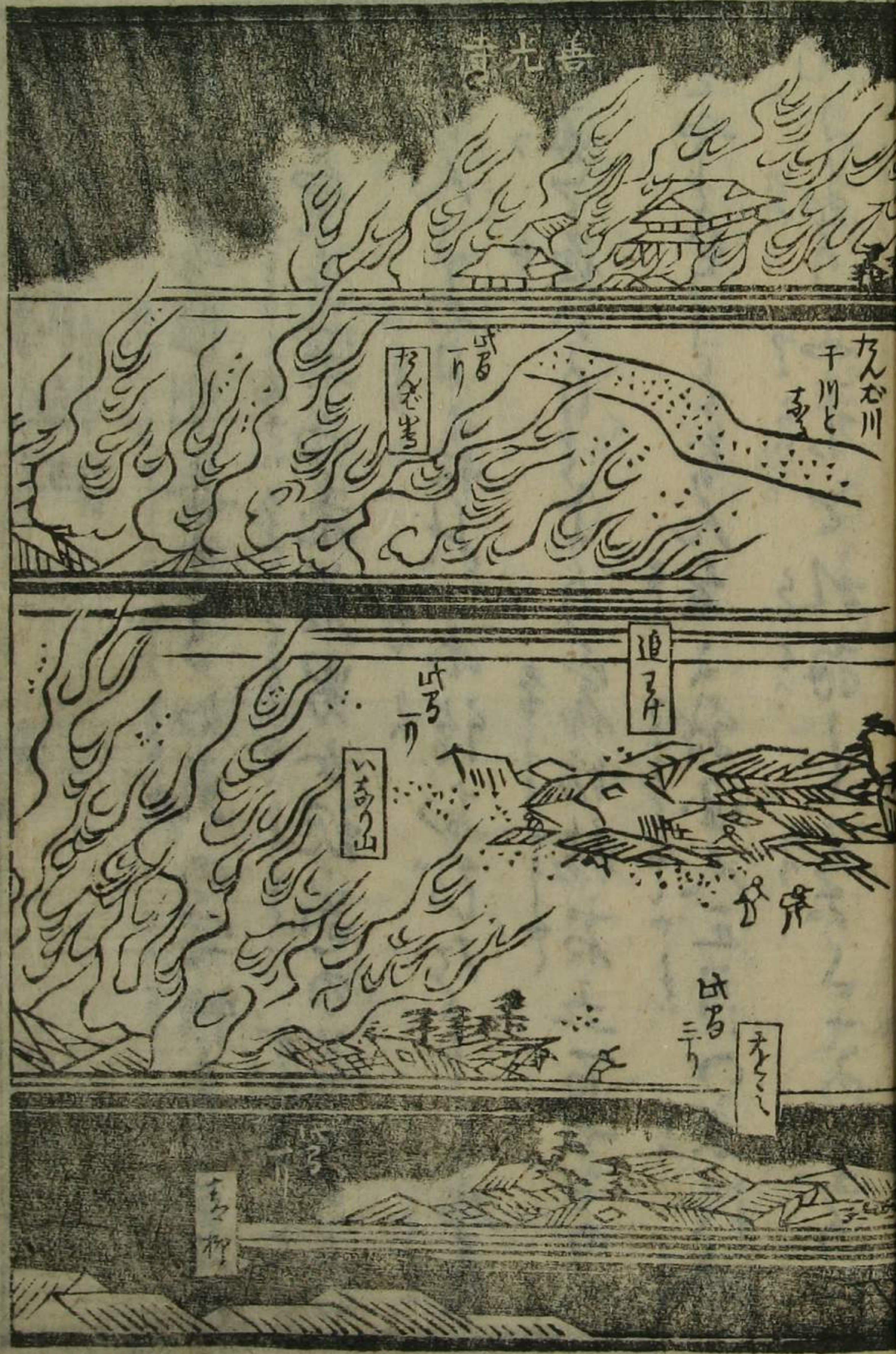
寺大とんど○差根月中の荒○長後崩家三
 分通り○醒ヶ井大換ド中ノラウジシ中老山カキ抜崩れ落水
 大とあざる崩家多々○ウツク柏束今月同ヶ束
 雲井ウツクは旦まぐり格別のとんどちり○カ加納
 大也七八のとんど崩家は山はとム並皆
 ち家月ちりのりちり

○頂の役サキまき換ド○カかこームまきらぐり
 川岩地カとれくカにカ吹カ物カ

○茶系カ言カ通カりのとんど○カ稲カ系カハアカ通カりカとんど
 ○カ頂カよりカ大カ山カ大カ作カ又カ山カのカとんど

大津浪継成り志

清光寺とらけく 志らけうの波成ととく	ぶらけ ドヤ	地き中敷のさけ えらうの傍きん	利いへて 志まきみ
志らけうの波成ととく 志らけうの波成ととく	ぶらけ ドヤ	つらき地しん ふきりやる嫁さん	ラまぢら ケりドヤ
志らけうの波成ととく 志らけうの波成ととく	ぶらけ ドヤ	志らけうのえんじん 正月のあらし細	出さ終で おらうぬ
志らけうの波成ととく 志らけうの波成ととく	ぶらけ ドヤ	町くの極終や まけるのそらうド	づをひて ドヤ
志らけうの波成ととく 志らけうの波成ととく	ぶらけ ドヤ	今更のつらみ 中とらお中ま	紀あか あらし



えつてはゆ... えてはゆ...
 たさたさ... ちめ...
 見と... 用...
 我... 志...
 草... 大...
 是... 入...
 水... 役... 大...
 いう... 中...

せり... かし...
 ぐ... 人...
 コリ... ヤ...
 日... 中...
 怪... 本...
 か... っ...
 後... 魚...
 ち... 人...
 春... の...

善光寺夢物語

丁未善信州善光寺如来の寤帳まーヤんふ

より寤東昇西老若男女現当の善因をむ

すじんよめ日夜此糸信おびた〜く常角

のな夜ハリ〜より宿坊旅者五百七名の人

をやとせ〜とやんま〜我五人三月の末に彼

地ふり如素を礼お〜るが〜その金りに

中ふを夜あ〜る

成乃別すびと思〜ま

おもりず福む〜んを

一人の貴き信佛

我肩と押し〜日油称名

急〜び今此土地ほど

ふく〜る愛〜る〜燃れ



おもて即死すなわち或ハ半死はんし半生の者もの此こゝ苦くるしみ一ひとむままま

 親おやをよびよびまあま子ことと呼よびま満みちちりりかかくくすすらら

 法は方ほうののああくく烟えんくくらら火ひももええいいづづぐぐ勿な心まごころ一ひと念ねん此こゝ

 火か中ちゆうととああれれがが是こゝにに焼やくく死しすするる者もののの呼よびま

 ああららううもも何なに鼻び焦やう熱ねつののままままままもも初はつめめややとと思おもふふ

 だだららううそそあありりれれよよもも又またすすままままどどとと刀やいば目めももいいづづ

 忍しのぶ一ひとたたああくく幸さい一ひとてて屋や根ねをを断やぶりり迹あと出でるるもも稀まれ

 ああれれどど半はん身みん押おししううままにに血ちをを吐はくくごごめめきき苦くるしみ

 めめりり中ちゆうみみももああれれああるるいいふふ思おもひひのの片かた足あし押おししてて

 接あひひああららずず怒おちもも狂きやう氣きああせせららししどどままらら

 ままるる烟えんふふむむせせびびてて指ゆびののややりりくく是こゝ非ひああくくもも子ことと

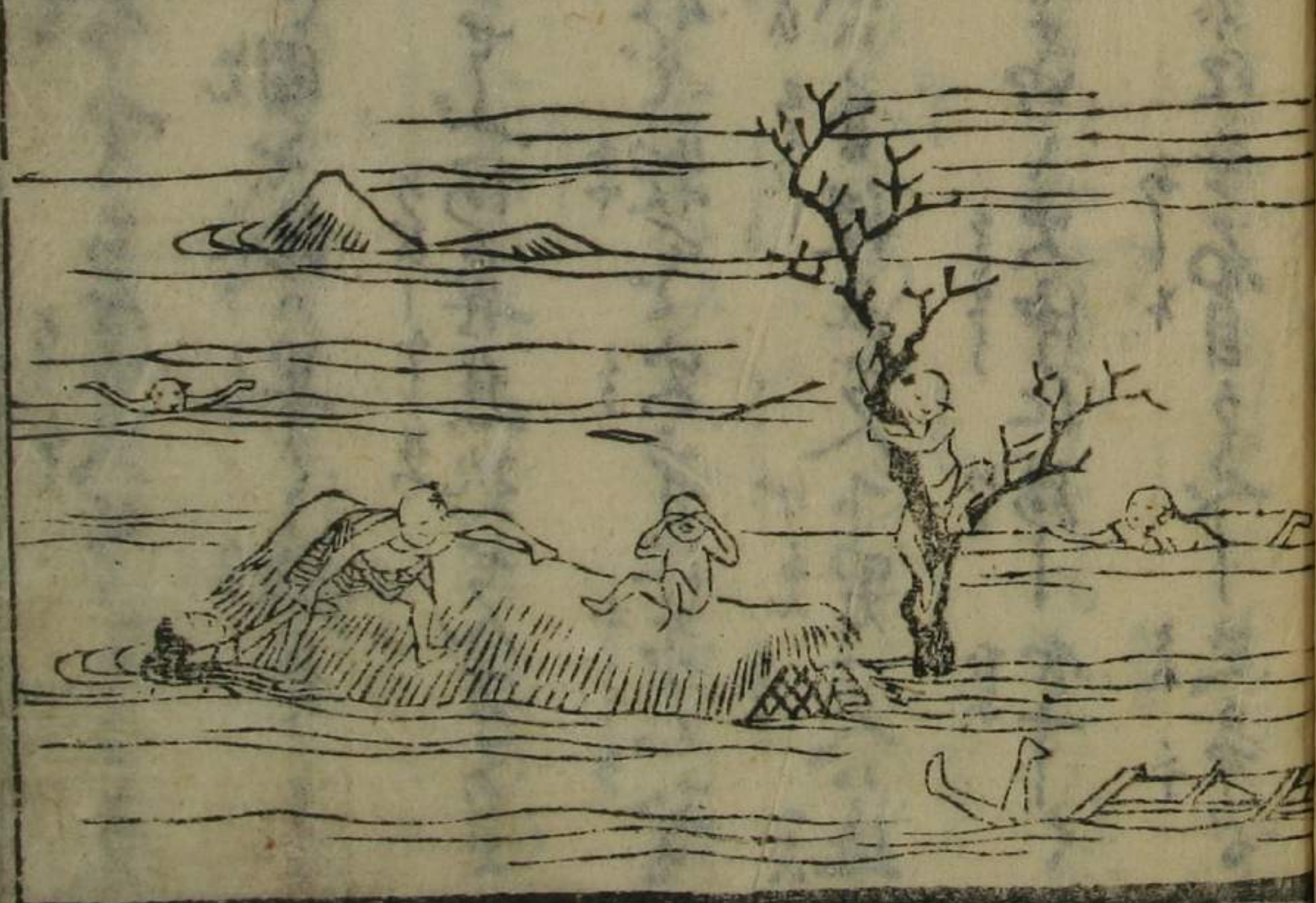
 すすててああららううももああららううももああららううももああららううももああららううももああららううもも

 婦ふ人にんのの指ゆびののああららううももああららううももああららううももああららううももああららううもも

 名なををよよびび助たすけててよよとと呼よびびけけよよ男おとこののややりりくくこれこれをを

見るく見るくともいふど助るも樹も中くに只徒り
 とるどる肉をなせんくに火いりえ付ばとるも
 け世の別あり親念せよや女房と膝刀持て念仏と
 ともに髪髪引きり血の涙ををまへれ去るよ
 押しおきば物れ透るに方いあれどお入る
 嵐のぞく途出べき道なきものくそや火死と
 ありて人ゆまうるべきが苦しい押しはくりに

母の行里くどけいと助け出
 くる文よ文を助んよ
 り来てえの雨よ入るれ又の
 行統括をそいふ子れも接
 ぶもいけ統括切放せと親い
 あせれど子の方とせいでそむ



当あてべすやとやせんかくやせんととらうち真火こてこもえ
 縁ゆかりもい我われはけあらそて死しすべき因をゆハ早く途をこうう
 とや疾しやくとと勵りきまもも烟けむりももせぶ何なに鼻はな息いき熱あつせん方方まりよ
 父ちちをすて母を助く途をぬれど親おやを火中なに盡んおも
 ひやもそて是非ぜいもなり或ハ自後ご五ご丈ぢやう人にん下げ男おとこ一ひと人ハ途
 へれどまま人を助く子樹こゝろもあく火中なに跡一ひと室むろ一むろく
 ありあめく西にしへゆりてはすがたを面目おもてくさりまる中にまる中にまる中
 ちちまままま婦ふ人にんの悲寒せむのままに幸さいふてのがれてい
 出いつまど親もまもいさありや婦人にもあらずもあらずもあらずも
 けこのまままの玉へありて近ちかひの人にんもあらずもあらずもあらずも
 おのいやうけ外ほか人にんの道を失ひ火中なに誤り入り
 井い水みづも入り地の裂れるに是をいふまあらずあらずひ
 縁ゆかりお首と換じとすも他たの子をこもけ我われ子こを失
 ちちを殺すい死しすもあらずうらうる是をいふまあらずあらずひ

食^あひ^ひの^のか^かの^のき^き物^{もの}も^もあ^あく^く体^{てい}と^とぎ^ぎ家^かと^とあ^あけ^けま^まら^ら
 形^かふ^ふや^や一^一足^{あし}を^を明^あす^すよ^よろ^ろめ^めき^き先^あの^の行^いき^きと^とぬ^ぬい^い
 餓^か鬼^ま道^ぢふ^ふひ^ひし^しう^うづ^づー^ーも^も物^{もの}を^をあ^あら^らず^ず一^一も^もの^のも^もあ^あら^らず^ず一^一も^もの^のも^もあ^あら^らず^ず
 得^えて^て味^あじ^じひ^ひ甘^あみ^み露^るの^のか^かく^くな^なる^るべ^べー^ーさ^さま^まに^に命^{いのち}の^の命^{いのち}を^を
 あり^あり^りの^の時^{とき}考^{かんが}へ^へく^くや^やあ^あべ^べー^ー又^{また}さ^さら^らに^に彼^{かの}方^{かた}と^と思^{おも}は^はす^すい^いせ^せ
 山^{やま}際^{ぎは}に^にあ^ある^るの^の村^{むら}里^り山^{やま}と^とよ^より^り巖^{いわ}石^{いし}あ^あら^られ^れた^た家^かの^の
 上^うふ^ふ落^おち^ちた^た人^{ひと}を^をも^もあ^あら^らず^ず粉^{こな}の^のど^どろ^ろと^と尚^{なほ}も^も大^{おほ}い^い震^{ふる}ひ^ひ
 一^い瞬^{しゅん}の^の間^{かん}に^に大^{おほ}い^い山^{やま}一^{いっ}時^{とき}に^に押^おし^し崩^ぶれ^れ山^{やま}下^{した}敷^{しき}の^の村^{むら}里^り
 百^{ひゃく}姓^{せい}忽^{たち}ち^ち中^{ちゆう}に^に押^おし^し埋^めれ^れし^しは^は是^これ^れの^の前^{まへ}に^に一^{いっ}人^{ひと}も^も残^{のこ}ら^らず^ず
 助^{たす}け^けを^をさ^さす^すま^まの^の身^みを^をぬ^ぬい^いむ^むざ^ざん^んと^とら^らず^ずも^も更^{さら}なる^るに^に佐^さ流^{りゅう}一^{いっ}
 の^の大^{おほ}い^い川^{がは}崩^ぶれ^れ山^{やま}と^と流^{なが}れ^れる^る水^{みづ}を^をあ^あら^らず^ず海^{うみ}水^{みづ}の^の海^{うみ}と^との^の四^し
 方^{かた}へ^へ溢^あれ^れ村^{むら}里^り敷^{しき}の^の山^{やま}と^と忽^{たち}ち^ちに^に洪水^{こうすい}一^{いっ}次^じに^に水^{みづ}が^が
 家^かも^もあ^あら^らず^ずか^から^られ^れる^る人^{ひと}民^{たみ}屋^や根^ねも^もよ^より^り樹^き木^{ぼく}も^もよ^より^り
 助^{たす}け^けを^をさ^さす^すま^まの^の身^みを^をぬ^ぬい^いむ^むざ^ざん^んと^とら^らず^ずも^も更^{さら}なる^るに^に佐^さ流^{りゅう}一^{いっ}



